

# 平成 23 年度 修士論文最終試験 発表要項

上越教育大学大学院 修士課程 学校教育研究科  
教科・領域教育専攻 自然系コース (数学)

期日 平成 24 年 2 月 1 日 (水)

会場 人文棟 113 教室

【発表時間】 発表 15 分, 質疑 10 分 (準備, 入れ替え時間を含む)

○開 式 10:30~10:35

○発 表

- ・発表 1 10:35~11:00 215402A 磯貝 邦彦 p1~p4  
ガロア理論と代数方程式の可解性
- ・発表 2 11:00~11:25 215410B 角田 直樹 p5~p8  
高等学校数学の三角比・三角関数における困難性について  
—連続性と乖離に焦点を当てて—
- ・発表 3 11:25~11:50 215411M 中山 優 p9~p12  
中学生による証明をする活動における思考過程に関する内言の様相

休 憩 11:50~12:50 (60分間)

- ・発表 4 12:50~13:15 215412K 成田 宗太郎 p13~p16  
数直線、2次元ユークリッド平面から展開する一般距離空間について
- ・発表 5 13:15~13:40 215413H 沼田 葵 p17~p20  
算数授業への参加に困難性をもつ子どもへの  
教師の手立てと子どもの変容: 子どもによる役割の獲得に着目して
- ・発表 6 13:40~14:05 225401J 石川 実 p21~p24  
中学校数学における手続きの説明の学習についての研究  
—伝言ゲームを用いた授業から—

休 憩 14:05~14:20 (15分間)

- ・発表 7 14:20~14:45 225403E 加藤 舞 p25~p28  
連分数と二次形式
- ・発表 8 14:45~15:10 225405M 笹原 佑介 p29~p32  
グラフ理論を教材とした中学生による数学的知識の社会的構成過程
- ・発表 9 15:10~15:35 225406K 中澤 健二 p33~p36  
複素数学習における指導改善に関する研究  
—複素数導入時の幾何的アプローチに焦点を当てて—

休憩 15:35~15:50 (15分間)

- ・発表10 15:50~16:15 225407H 藤巻 雄也 p36~p40  
相互作用による子どもの分数の知識形成と規範性に関する研究
- ・発表11 16:15~16:40 225408P 松井 悠香 p41~p44  
中学校証明学習における証明の機能を活かした授業に関する研究  
—証明の機能としてのコミュニケーションに焦点を当てて—

※予定より遅れた場合、休憩時間を短くして調整します。予めご了承ください。